

研修名	自然体験研修
	令和2年1月21日(火) 10:30～12:00
講演	「生き物っておもしろい」
講師	大阪市立自然史博物館 外来研究員 NP0 法人大阪自然史センター 西澤 真樹子 氏

1 講演要旨

1) 動物園や水族館での見学に役立つ知識

① キリンについて

- ・首・足・舌が長いのは高いところの物を食べるためである。
- ・長い首の骨は人間と同じ7本である。
- ・水を飲むときは足を広げて首を降ろして飲むのは、襲われた時にすぐに対応するためである。
- ・毛の模様によって生きる長さが違うことが分かってきている。

② シマウマについて

- ・毛がシマ模様なのは敵を混乱させるためや虫よけのためといわれている。

③ トラについて

- ・夜に10～20kmほど歩き狩りをする。成功確率は10%ほどといわれている。

④ オオサンショウウオについて

- ・両生類である。また両生類の中でもしっぽがある両生類に分類される。

⑤ ペンギンについて

- ・昔は空を飛んでいた。羽は固くうろこのようである。
- ・尾脂線から出る脂を体にぬって水をはじくようにしている。
- ・海7割、陸3割の割合で過ごし、陸にいるときは羽の生え変わり時期といわれている。

⑥ クラゲについて

- ・プランクトンを食べて生きている。口はかさの中央部分にある。
- ・餌を食べるとかさの部分に餌が入っているのが目で見てわかる。

⑦ イルカについて

- ・体の表面はツルツルで固いゴムのようである。
- ・昔は体の表面に毛が生えていた。
- ・骨伝動で音を受けている。

2) 骨から学ぶ動物の特性/化石の基本を学んでみよう

① 実際に恐竜の骨のレプリカを見て特徴や大きさを感じる。

② 恐竜の名の由来

- ・恐：Dinos(恐ろしい)+竜：Saurai(トカゲ)からきている。

③ティラノサウルスについて

- ・約 6,800 万年前に生息していた肉食恐竜。

④キランタイサウルスについて

- ・中国北部で見つかったアロサウルスの仲間。

⑤トリケラトプスについて

- ・中国で誕生し今のアメリカ大陸を渡って繁殖した。

⑥ステゴサウルスについて

- ・ティラノサウルスと同じ時代に生きていた恐竜。

⑦アンモナイトについて

- ・1万～2万種類のアンモナイトが見つかっており、形、大きさは色々である。
- ・小さいものだと1円玉ほどで、大きいものだと2mほどにもなるという。
- ・色は不明で、イカやタコの仲間である。
- ・首長竜に食べられていたといわれている。

⑧絵本の紹介

⑨アンモナイトのレプリカを作る(実践)

- ・実際のアンモナイトの化石を樹脂で型取り、粘土や石膏でレプリカを作り、絵具で着色する。

2 感想

今回の研修を受けて1番印象に残っていることは、西澤先生が研修の初めに私たちや子どもを取り巻く環境の周りに木や森や動物たちと触れ合える自然があるか、無いかではなく、子ども達に自然というものをどう伝え、提示、提供するか、ということがいかに大切であるか。ということをお話されたことでした。実際、自園の周辺は住宅街があり自然が沢山あるといった環境ではありませんが、身近な環境に沢山の自然がなくとも、保育者が季節ならではの自然事象を感じられるような言葉掛けや環境作り、園外学習などで動物や植物に触れられる機会など、環境を与えていく中で子どもたちが、なぜ？どうして？の気持ちを感じられることや、共に知っていくことの大切さを改めて感じました。

午前中の講義では動物園や水族館での見学に役立つ、生き物の豆知識について学びました。身近に触れている動物や水辺の生き物であっても知らなかった知識(上記講演要旨に記載)などが多かったです。子どもの、なぜ？どうして？などの興味を引き出せるような見方や知識が得られ、とても参考になりました。

午後の講義と実践では、恐竜の骨のレプリカを実際に見たり、本物のアンモナイトの化石からアンモナイトのレプリカを作ったりしました。現代では実際に見たり、触れたりすることの出来ない物への想像を巡らせ、アンモナイトに色を付けたり、容姿を考えたりすることは、子ども達の探求心を湧きだたせるだろうと思いました。

研修を通しての実践をまた子ども達と楽しんだり、保育者と共有していきたいと思います。